

Müller – Lyer の図形¹

図 1 の Müller-Lyer の図形では、左側の > と < で囲まれた横棒の長さと、右側の < と > で囲まれた横棒の長さは物理的には等しいのですが、左側の横棒の方が長く見えます。

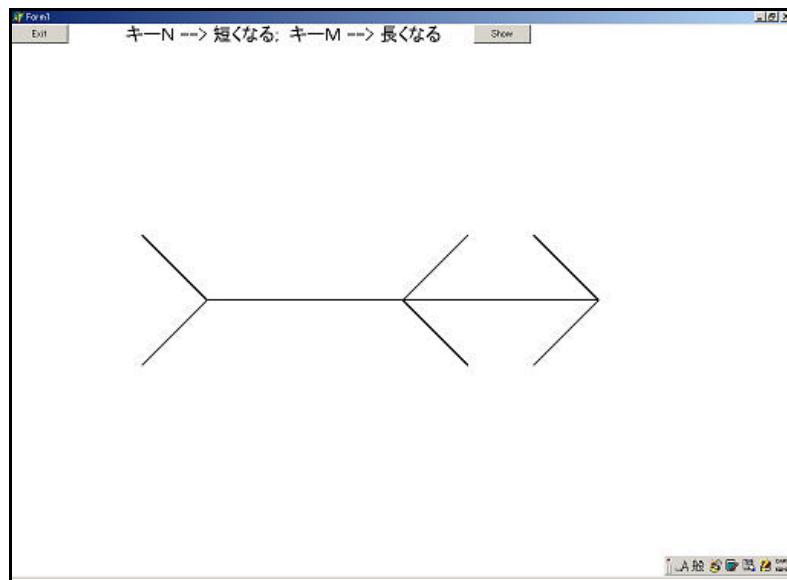


図 1 Müller – Lyer の図形

図 1 は、プログラム PMullerLyer.dpr の実行によって表示されるものです。図 1 の画面において、左の > と < で挟まれた部分と右の < と > で挟まれた部分が同じ長さに見えるように調節してみます。> と < で挟まれた部分および < と > で挟まれた部分を赤および緑で色付けしたものを図 2 に示しました。

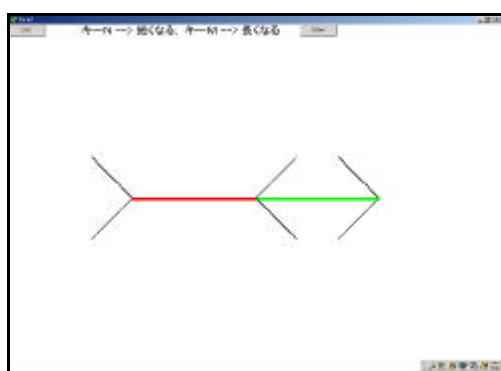


図 2 比較する線分を色付けしたもの

¹ プログラムの解説は、岡本安晴「Delphi でエンジョイプログラミング：心と行動の科学がわかる心理学シミュレーション」、CQ 出版社、1999 を見て下さい。

まず、プログラム PmullerLyer.dpr を実行すると次図のフォームが表示されます。



フォームの「GO」ボタンのクリックで図1の画面になります。図1の画面の状態で、「M」のキー、あるいは「N」のキーを押すと、右側の横棒の長さが長くなったり、短くなったりします。

左右の横棒の長さが等しく見えたところで、画面の上の方にある Show ボタンをクリックします。Show ボタンのクリックで図3のように左右の横棒の長さがピクセル単位で表示されます。左右の棒の長さの差が錯視量です。

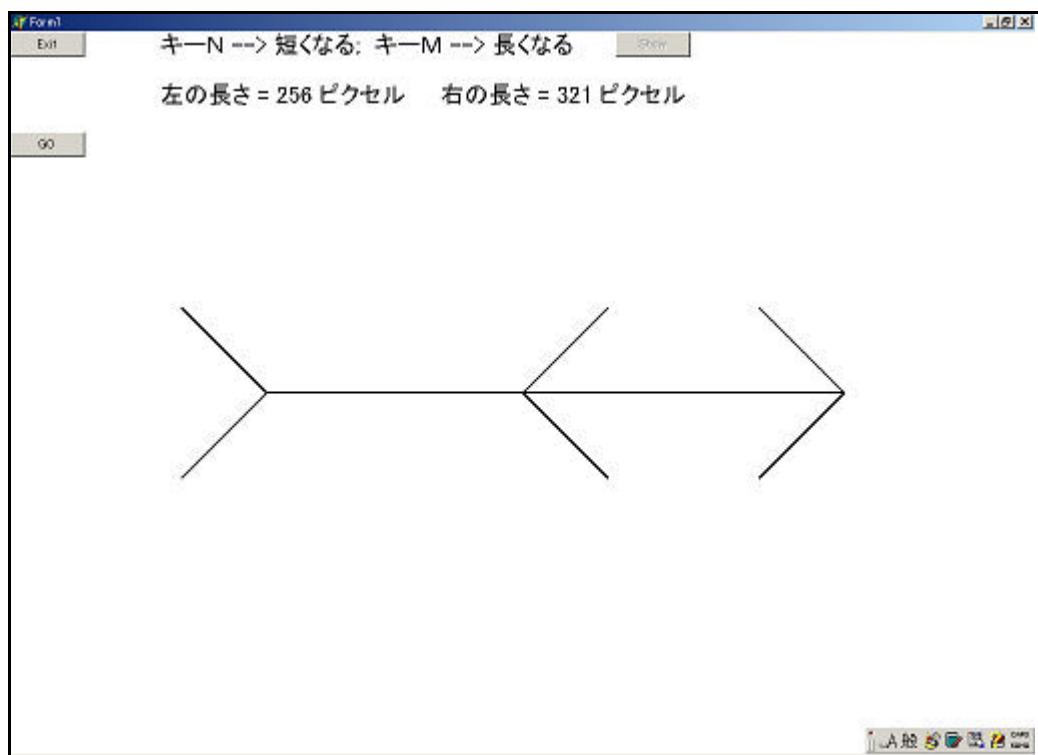


図3 「Show」ボタンのクリックで左右の長さの表示

図3の画面で「GO」ボタンをクリックすると図4のような画面になります。

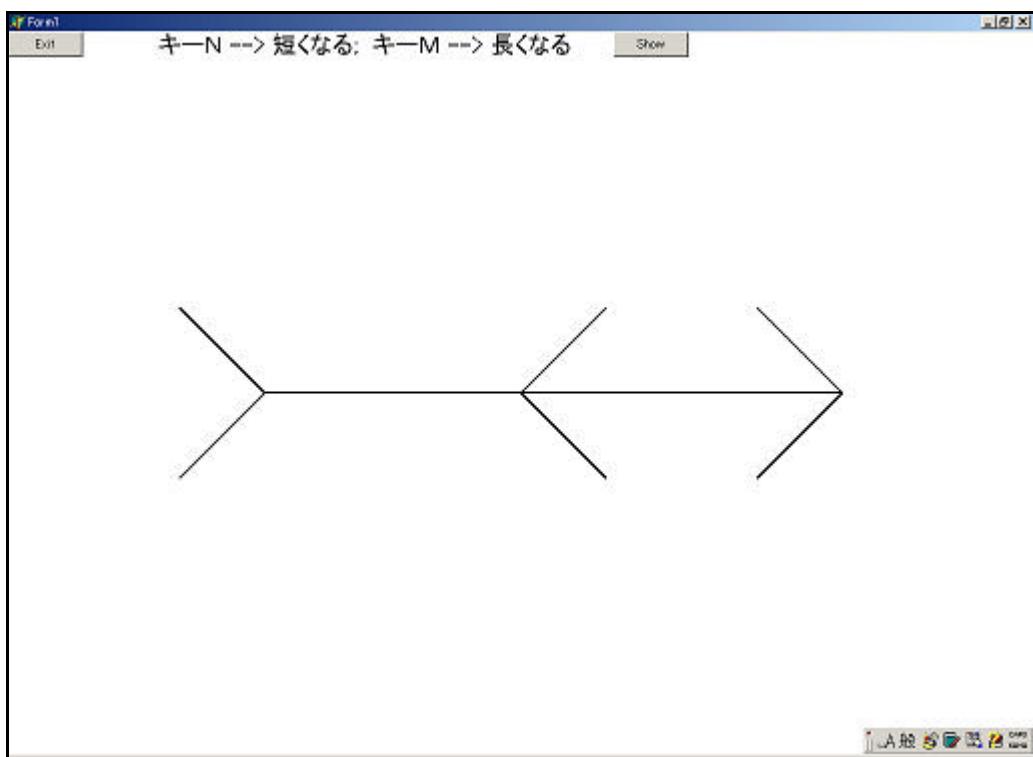


図4 図3の画面で「GO」をクリック

図4の画面で、再び「M」キー、「N」キーの押下で右側の横棒の長さを調整することができます。

Exit ボタンをクリックすると、プログラムは終了します。